

◆庄内川水系河川整備計画(原案)：第5章 第1節

P.92

## 第5章 地域と連携した取り組み

### 第1節 人と川との関わりについて

土岐川庄内川は、長い歴史のなかで私たちの暮らしに豊かな自然の恵みをもたらすとともに、近年の都市化が進む沿川地域にとっては、自然のうるおいと安らぎを与えてくれる貴重なオープンスペースともなっている反面、幾多の洪水氾濫を繰り返し、私たちの暮らしを脅かし、多大な被害も与えてきた。しかし、近年は生活様式等の変化に伴い、人と川との関係が疎遠になりつつあるため、地域とともに歴史を刻んできた土岐川庄内川が、安全で自然豊かであり、親しみのもてる川となるよう、地域社会と一体となった川づくりを進めていくことが必要である。このため、流域住民、市民団体、企業、自治体、河川管理者等が日頃から情報の共有化や交流を進め、互いに連携し、信頼関係を構築するとともに、住民や関係機関等と連携し、住民との協働による川づくりを展開する。

## 1 地域と進める川づくり

### (1) 地域と一体となった河川管理の推進

庄内川沿川に暮らす地域住民が庄内川に誇りや親しみを持ち、より良い河川環境を実現していくため、地域住民等と協働による「クリーン大作戦」などの河川清掃活動や、地域住民等の自主的な参画による「庄内川アダプト」等のアダプト活動を進め、地域と一体となったより良い河川管理の推進を図る。



●写真5.1.1 クリーン大作戦



●写真5.1.2 アダプト活動

### 頂いた意見の要約

#### 【頂いた意見の要旨】

市民と行政あるいは市民間で協力して、河川空間の美化などに取り組めるようになることが期待されています。

#### 【頂いた主な意見の概要】

##### <流域委員会>

- ・河川管理者と住民の連携や協働の仕方を整備計画に記述すべき。
- ・生態、親水、景観面の指標に応じた水質目標とすることは評価できる。さらに、NPO、NGOなどと連携し、効果を上げることが重要。

##### <市民意見交換会の提言>

- ・ゴミのないきれいな川づくりを進める必要がある。(藤前干潟、稲永公園、ヨシ原)

##### <市民の意見>

- ・市民ボランティアと行政とが協力しながら川づくりを進めるべき。
- ・上下流で交流を深めるなどして、市民が流域全体の理解を深めることが重要。
- ・環境との共生や川の美化に関する市民意識を高め、ゴミを減らす働きかけが必要。
- ・ゴミをなくすための市民の活動の場があると良い。
- ・草刈り、ゴミ拾い、防災などのボランティア活動を推進したい。
- ・河川敷に草木が生い茂っている。対策を講じるべき。

### 河川整備計画(原案)への意見の反映における考え方

- ゴミや利用マナーなど、高水敷などの利用に関する問題は、行政機関だけでは解決が困難であり、地域住民との協働による河川管理が必要だと考えています。
- 地域と一体となった河川管理の推進では、親しみの持てる土岐川庄内川となるように地域住民と協働した河川清掃活動を推進します。
- また、地域住民で組織する団体等の自主的な参画によるアダプト活動等を進め、より良い河川管理を推進します。

庄内川アダプトでは、幅広い河川管理への参画を目指したモデル事業を実施している中で、「庄内川沿川に暮らす地域の皆さんが庄内川に誇りを持ち、より良い河川環境を実現していくために、河川管理者と共に地域の皆さんが河川管理へ自主的に参画していくこと」を目指しています。

◆庄内川水系河川整備計画(原案)：第5章 第1節

P.92

(2) 地域活動支援

多種多様な市民団体等が積極的に活動している庄内川において、河川環境の保全・創出、情報交換と交流、行政や企業との連携・協働等を目的として平成12年1月に発足した「土岐川・庄内川流域ネットワーク」や、行政と流域住民や市民団体との連携活動を円滑に実施するための役割を担うことを目的として平成18年2月に設立した「土岐川・庄内川サポートセンター」、ボランティアで川に関する活動を指導・案内する「川ナビ」、「土岐川観察館」等と連携し、「土岐川庄内川交流会」、「志段味ビオトープ整備」などの河川に関する環境学習活動を始めとする地域住民や市民団体などの地域活動や社会貢献活動、交流の場づくりなどの支援を図る。

また、緊急時の防災拠点として整備されている水防センター等については、平常時には一般開放するなど施設の有効活用を図るとともに、住民活動・交流の拠点や河川に関する講演会など、地域コミュニケーションや河川に関する学習等の拠点として有効活用を図る。

P.93



●写真5.1.3 土岐川庄内川流域ネットワークの活動状況  
市民団体及び個人が集い、情報交換や交流を進めてネットワークでの活動を支援



●写真5.1.4 地域住民等による自主活動  
市民ができることを具体的に提案し、実践を目的に集まった交流会での自主プロジェクトを支援



●写真5.1.5 川に関する指導、案内、啓発活動  
庄内川に関する自然観察会や環境学習会を企画し、指導をボランティアで実施



●写真5.1.6 朝市の開催  
人が賑わう拠点として地元行政、市民が参画した朝市を水防センターで開催し、市民間の交流の場として活用

頂いた意見の要約

【頂いた意見の要旨】

市民が川とふれあい、体験するためのイベントや情報提供、交流の活発化が期待されています。

【頂いた主な意見の概要】

<流域委員会>

・河川管理者と住民の連携や協働の仕方を整備計画に記述すべき。

<市民意見交換会の提言>

- ・川の魅力と歴史資源ガイドマップを作成する必要がある。
- ・風景デザイン、維持管理への市民参加、協働事業を進める必要がある。
- ・「子どもガサガサ探検隊」～流域の交流と連携が必要。
- ・市民、学校、行政で協働して育む水辺拠点を流域に増やしていく。

<市民の意見>

- ・市民ボランティアと行政とが協力しながら川づくりを進めるべき。
- ・上下流で交流を深めるなどして、市民が流域全体の理解を深めることが重要。
- ・若い世代が川に関心を持つための地元主導の活動やイベントが行われるべき。
- ・川とふれあう活動に参加したい。水辺の楽校のイベントなど、地元での参加機会を増やしてほしい。
- ・水防センターを普段から多目的に利用したい。

河川整備計画(原案)への意見の反映における考え方

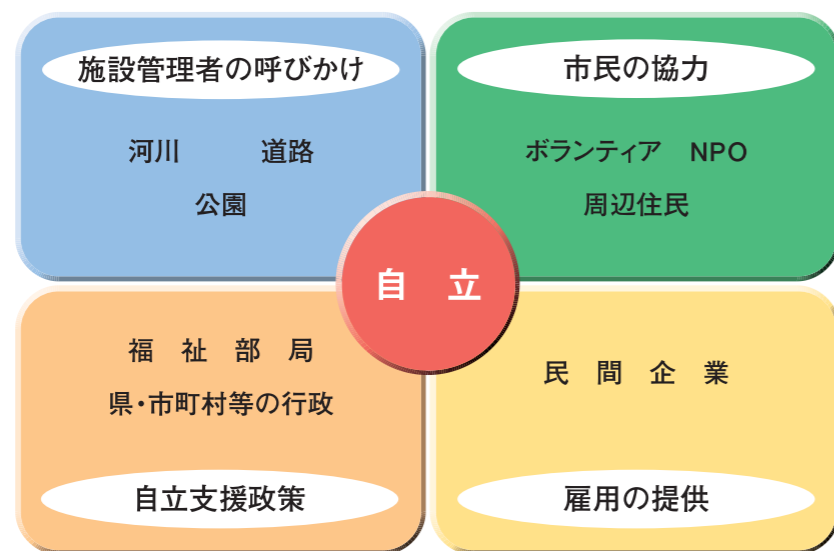
- 土岐川庄内川の川づくりでは、地域が一体となって地域の活力が引き出されるような川づくりが展開されていくことが必要と考えられます。
- このため、土岐川庄内川流域の川に関する環境学習の活動をはじめとする地域住民や市民団体などの地域活動や社会貢献活動、交流の場づくりなどを支援します。
- また、緊急時の防災拠点として整備されている水防センター等については、平常時には一般開放し、地域のコミュニケーションや河川に関する学習等の拠点として施設の有効活用を図ります。
- ◆川ナビ：土岐川・庄内川において川に関する活動を実施、支援する指導・案内ボランティアのこと。

◆庄内川水系河川整備計画(原案)：第5章 第1節

P.93

## 2 社会的な課題への支援

様々な事情により土岐川庄内川の高水敷に住むことを余儀なくされているホームレスについては、洪水時等に非常に危険な状況となることから、自治体や地域住民、市民支援団体、企業等と連携し、人権が保障されるよう自立支援の推進を図る他、河川巡視等により日頃から状況の把握に努める。



●図5.1.1 行政、市民、支援団体、企業等が連携した自立支援の推進

### 頂いた意見の要約

#### 【頂いた意見の要旨】

ホームレス問題を解決するための関係機関の連携が求められています。

#### 【頂いた主な意見の概要】

##### <市民の意見>

- ・河川敷のホームレスの洪水時の安全対策を進めてほしい。
- ・ホームレスの解決のため関係機関の連携した取り組みが必要。

### 河川整備計画(原案)への意見の反映における考え方

- 洪水時には河川敷に水が流れるなど大変に危険な状況になります。社会的な状況により、余儀なく河川敷に住んでいるホームレスの人々に対して、河川巡視などのパトロール等により、ホームレスの状況把握に努めるとともに、関係機関と連携して解決に向けての取り組みが必要であると考えます。

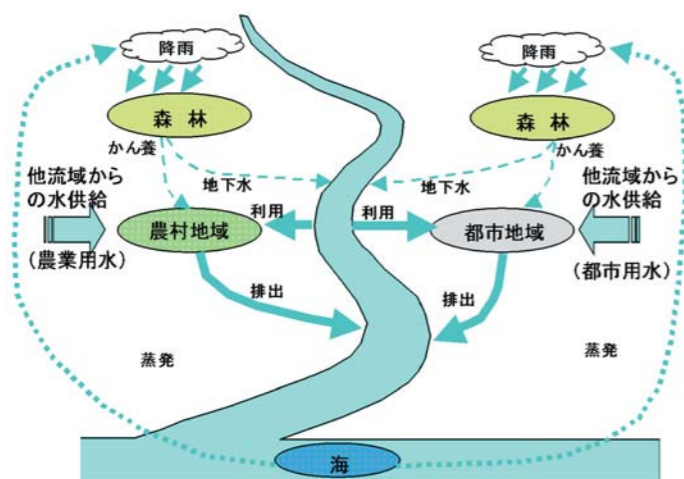


◆庄内川水系河川整備計画(原案)：第5章 第1節

P.94

### 3 健全な水循環系の構築

健全な水循環系の構築に向け、「森林」、「農地」、「河川」、「水道」、「下水道」、「海」等の様々な分野を総合的に捉え、庄内川流域における水循環系の現状と課題、問題点等を認識するとともに、課題の解決に向け関係機関が連携、協力して、水循環系に関する調査、研究に取り組む。



●図5.1.2 庄内川の水循環系のイメージ

水循環系の調査・研究課題
●水循環系の実態把握
●問題点や要因分析
●健全な水循環系の構築に向けた方針や目標の設定
●各主体における連携のあり方と取り組み評価
●健全な水循環系の構築に向けた計画策定

頂いた意見の要約

【頂いた意見の要旨】

流域全体での水循環を考慮するとともに、生活用水の依存状況を認識して下水道の位置付けを考えることが求められています。

【頂いた主な意見の概要】

<流域委員会>

- ・治水における貯留浸透機能の減少に考慮した地域開発のように、流域環境を保全し水循環の構築につながる視点が重要である。
- ・庄内川の水量、水質等は、木曾川から導水された生活用水の排水の影響が大きいため、下水道の位置付けを流域全体として考える必要がある。

<市民の意見>

- ・定期的に利水計画を検討すべき。
- ・小里川ダムの放流量を増やしてほしい。

河川整備計画(原案)への意見の反映における考え方

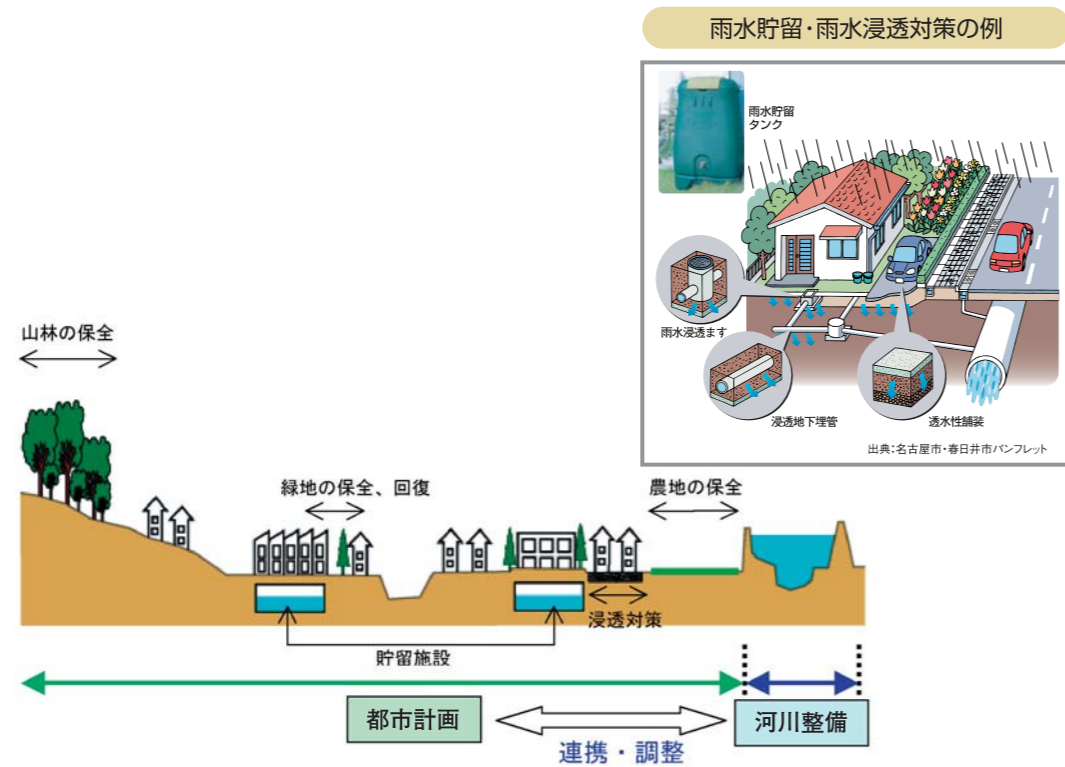
- 健全な水循環系の構築では、「森林」、「農地」、「河川」、「水道」、「下水道」等の様々な分野を総合的に捉えることが必要であり、関係機関が連携・協力して、水循環系に関する調査、研究に取り組めます。
- ◆水循環：地表、海面から蒸発した水蒸気が、雨となって、地表に降り、一部は地下水となって、川を流れて海に至るといった循環系を繰り返す、循環経路のこと。

◆庄内川水系河川整備計画(原案)：第5章 第1節

P.94

## 4 流域における対策

庄内川流域は、昭和30年代より流域の土地開発が進み、丘陵地や里山、河川沿いの氾濫域、段丘面上に広がる農地まで大規模な区画整理等が進行したため、流域が有していた保水機能が失われ、市街地の内水被害を始めとして流域全体が洪水に対して脆弱になっている。このため、流域全体に降った雨を流域や河川等で互いに分担しあい、洪水をできるだけ庄内川に流出しないようにすることが必要であり、関係機関等と連携して、問題提起を図るとともに、流域住民への啓発活動や流域からの流出を抑制する施策などを進め、災害に強いまちづくりを推進する。



●図5.1.3 流域における洪水対策との連携のイメージ

### 頂いた意見の要約

#### 【頂いた意見の要旨】

洪水時の流出抑制について、河川だけでなく流域全体で考え、各家庭レベルの対策から、自治体等との連携や制度拡充なども含めた対応を図ることが求められています。一方で、雨水貯留や排出抑制だけではなく、河道改修などの対策も望まれています。

なお、現段階では、流域の保水力を考慮して計画することは難しいのではないかと認識もあり、これら流域対策については、整備計画策定後も議論していくことが望まれています。

#### 【頂いた主な意見の概要】

##### ＜流域委員会＞

- ・河川管理者と住民の連携や協働の仕方を整備計画に記述すべき。
- ・上中流域の保水能力を回復するために、自助、公助、共助という様々な連携の形ができればよい。
- ・流域の対策については、議論する場が他にないため、問題を指摘し、上流部や他の市町に理解を求めていく必要がある。
- ・流域対策など急いで盛り込めない問題については、整備計画策定後の議論を考えていきたい。
- ・現段階では豪雨時における流域の保水力の効果を見込むことが難しく、治水の計画に見込むのではなくプラスαとして考えるべき。

##### ＜市民意見交換会の提言＞

- ・上下流域や支川域の地形的特性や相互の関連性、リスクに応じた治水・防災対策が必要。
- ・地域における防災対策を強化する取り組みや仕組みを検討する。
- ・雨水貯留施設の普及など流域全体で流出抑制対策を進める必要がある。

##### ＜市民の意見＞

- ・流域全体で一体的に雨水貯留・雨水浸透対策を推進すべき。
- ・保水能力回復のため、植林をするなど、緑を増やしてほしい。
- ・流域全体で治水を考えることが重要。
- ・雨水貯留の必要性は感じない。
- ・雨水貯留等の施策では限界があるのではないかと。
- ・水害後の対策も考慮した、事前の官民協力やソフト対策の充実が大切。
- ・区画整理に伴う田の減少により水害の拡大が心配。
- ・沿川のまちづくりとの連動した治水対策とすべき。

### 河川整備計画(原案)への意見の反映における考え方

- 流域における対策との連携では、流域の開発が進むことにより街が洪水に対して弱い弱になっていることから、河川整備を進めるとともに、流域が一体となって災害に強いまちづくりのため、流出を抑える施策や問題提起、啓発活動を関係部局等と連携して推進していきます。
- ◆雨水浸透貯留施設：都市部における保水・遊水機能の維持のために、雨水を積極的に貯留・浸透させるために設けられる施設のことをいいます。各戸貯留、団地の棟間貯留、運動場、広場等の貯留施設と浸透ます、浸透井、浸透性舗装等の浸透施設があります。



◆庄内川水系河川整備計画(原案)：第5章 第2節

P.95

第2節 庄内川の川づくりの進め方

庄内川のより良い川づくりを進めるためには、地域住民や関係機関等が一体となって取り組んでいくことが重要である。このため、庄内川が育んできた歴史や文化、自然環境、生活環境等を踏まえ、庄内川の再認識と新しい発見を進め、連携を通じて人と人、地域と地域による新たな連携を育みながら、地域の活力が引き出されるような川づくりを推進する。

1 地域とのコミュニケーション

より良い川づくりを進めるためには、地域住民が土岐川庄内川に対し期待、魅力、関心等を持ってもらうことが重要である。このため、ホームページや「庄内川・土岐川だより」、「こんにちは」等の広報誌、パンフレット等により積極的に土岐川庄内川に関する情報発信を行うとともに、「りばーびあ庄内川」、「なごや夏まつり」などのイベントや商業施設等を利用したオープンハウス等により地域との情報の共有化を進めていく。

また、土岐川庄内川を活用した総合的な学習や、職員が有する知見等を地域社会に還元し地域との交流を深める「出前講師」、地域活動等への支援などを通じて、地域との両方向のコミュニケーションの向上を図る。



●図5.2.1 庄内川河川事務所のホームページ



●図5.2.2 土岐川庄内川の広報誌



●写真5.2.1 オープンハウスの開催

頂いた意見の要約

【頂いた意見の要旨】

地形や歴史、生き物、河川敷利用、安全性、水質、計画や事業等、川に関する様々な情報を発信することが求められています。

また、市民と交流して、情報共有や意識向上を図ることが期待されているとともに、専門家だけでなく多くの人の意見を計画に反映させるとともに、継続的に計画や事業等に関する分かりやすい情報提供や意見把握を図ることが求められています。

【頂いた主な意見の概要】

<流域委員会>

- ・川の周りの地形や歴史等を地域の人に情報発信する流域圏教育(啓発)が重要である。
- ・情報の交流では、「地域に根ざした河川整備」として、歴史や家族という視点が必要である。

<市民意見交換会の提言>

- ・市民グループが集まってホームページをつくる。

<市民の意見>

- ・日常生活の川とのつきあい方について、市民が相互に情報を共有すべき。
- ・治水や計画の情報提供をすべき。
- ・河川空間を利用しやすくなるような情報提供をすべき。
- ・川で生きる動植物について情報提供すべき。
- ・オープンハウス等の分かりやすい情報提供や、市民から意見を聴く取り組みを今後も展開すべき。
- ・オープンハウスの目的が不明確。目的を明らかにし、資料の作り方など工夫すべき。
- ・河川に関して多様な情報提供や意見交換ができる場が必要。
- ・霞堤、二重堤、大留橋など歴史を後世に伝えたい。
- ・浚渫船がいつからいつまであったか知りたい。【28.6km地点右岸】

河川整備計画(原案)への意見の反映における考え方

- 現在、ホームページや広報誌等によって、庄内川に関する情報の提供を行っていますが、地域住民にさらに積極的に関心を持ってもらうため、人の集まるイベントや商業施設等を利用したオープンハウス等において川に関する情報発信を行い、地域住民との情報の共有化に努めていきます。
- 土岐川庄内川での体験学習や川についての総合的な学習や、「出前講座」として職員の有する河川に関する専門的な知見等を社会に還元することで地域と意見交換の場づくりを通じて両方向のコミュニケーションの向上に努めていきます。

◆庄内川水系河川整備計画（原案）：第5章 第2節

P.95

## 2 住民参画による川づくりの推進

河川整備計画を具体化するための事業の実施に際しては、事業の進め方や住民の関わりを予め明確にし、お互いに情報を共有するとともに、事業計画の初期の段階から個々のニーズに合わせた様々な住民参加の機会を設けるなど、住民が参加できる具体的な川づくりを推進する。

また、川づくりは、国や県、市町など様々な行政分野に関連していることや、行政による支援や行政と住民との連携が重要であることから、関係する行政間で密に連絡を取り、情報を共有しながら、効果的かつ効率的な川づくりを推進する。

### 頂いた意見の要約

#### 【頂いた意見の要旨】

専門家のみではなく、いろいろな人から意見を聴いて、整備に反映させる必要があることや、計画や事業の進捗状況などについて、その内容、目的を情報提供する必要があること、さらには意見を発言したいとの意見がありました。

#### 【頂いた主な意見の概要】

##### <市民の意見>

- ・一部の専門家だけでなく、いろいろな人から意見を聴いて、整備に反映させるべき。
- ・ホームページやブログを利用して意見を言いたい。
- ・計画や事業のプロセス、進捗状況を常に明確にし、工事前には住民に説明すべき。
- ・小田井越流堤で現在進められている工事の目的を知りたい。
- ・サイクリングロードの過去の計画がどうなったか知りたい。
- ・区画整理と河川整備の共同事業の進捗状況や責任分担について知りたい。
- ・ビオトープ整備のコンセプト、内容、今後の予定を知りたい。
- ・事業計画に関する情報を提供すべき（防災拠点、橋梁、調整池、桜佐地区の開発）。

### 河川整備計画（原案）への意見の反映における考え方

- 河川整備計画を具体化するために事業を実施する際には、事業内容やその進め方や住民との関わりや影響を予め明確に示し、情報の共有化し、事業計画の初期の段階から住民が参加できる具体的な川づくりに努めていきます。
- 関係する行政間で密に連絡を取り、情報を共有することで、効果的かつ効率的に庄内川のより良い川づくりに努めていきます。

◆庄内川水系河川整備計画(原案)：第5章 第2節

P.96

### 3 国際的な交流や情報交換等の促進

庄内川流域は、渇水に対して脆弱な地域であり、これまでに生活水準の向上、生産活動の拡大等による水需要の増大、特に高度成長時代の急激な水需要の増大に対応するため、木曾川水系の豊富な水量に依存するなどの各種施策を講じることにより、現在の社会基盤を築いてきた。このため、将来にわたって水の持続的な利用が可能となるよう、酸性雨や地球温暖化等の地球環境の変化など、水資源に関する問題に対応するため、国際的な交流や情報交換等を進めていくことが必要である。また、地球規模の気候変動が騒がれるなか、米国南部ニューオーリンズで起こったハリケーン・カトリーナによる水害の教訓などは、広域地盤沈下が進行する海拔ゼロメートル地帯などの地域特性が類似した濃尾平野に位置する庄内川の危機管理を考えるうえで重要な情報であり、積極的に国際的な交流や情報交換等を進めていく必要がある。

このため、水と衛生の問題、水不足、水に関連する自然災害による被害の増大、水質の悪化と淡水生態系の危機、地球温暖化問題など、様々な地球上の水問題の解決に向け、調査研究を進めるとともに、国際的な交流や情報交換等の促進を図る。

頂いた意見の要約

【頂いた意見の要旨】

【頂いた主な意見の概要】

河川整備計画(原案)への意見の反映における考え方

- 将来にわたり水の持続的な利用を可能とするため、酸性雨や地球温暖化等の地球環境の変化など、水資源に関する問題に対応するため、国際的な交流や情報交換等を進めていく必要があります。また、ハリケーン・カトリーナによる水害被害は、海拔ゼロメートル地帯を有する濃尾平野に位置する庄内川の危機管理を考えるうえで重要な情報であり、積極的に国際的な交流や情報交換等を進めていく必要があります。このため、水と衛生の問題、水不足、水に関連する自然災害、水質の悪化と淡水生態系の危機、地球温暖化問題など、様々な地球上の水問題の解決に向け、調査研究を進めるとともに、国際的な交流や情報交換等の促進を図ります。